

## JECC「保守サービス向上月間」で 優秀保守技術者・応募作入賞者を表彰

# 10月10日開催表彰式を受賞者233名決まる 保守技術者全国25グループと応募作入賞者



JECCは、毎年10月を「保守サービス向上月間」と定め、コンピュータ保守技術者の日頃の努力を称える「優秀保守技術者表彰式典」を開催しているが、このほど本年度の受賞者として、優秀保守技術者25グループ225名と、保守サービス向上月間の標語及び保守サービスに関する感想文の受賞者8名を決定し、10月10日に東京・大手町の経団連会館カンファレンスで開催する第46回優秀保守技術者表彰式典において表彰を行う。

保守サービス向上月間は、経済産業省の前身である通商産業省の提唱によって生まれた情報化月間に合わせて、JECCが毎年実施している恒例の行事である。回を重ねて今年は46回目を迎える。

JECCでは毎年、この行事の一環として、JECCのお客様を対象にした保守状況調査を実施し、その結果を基に保守サービスの向上を図る保守サービス総点検運動を実施するほか、優秀保守技術者表彰式典を開催している。

この式典では、システムの安定稼働を維持するために日夜努力されている多くの保守技術者の中から、特に顕著な功績があった方々を優秀保守技術者として、また、応募の保守サービス向上月間標語と感想文で入賞された方々を、ともに経済産業省など関係機関からのご来賓の前でJECCの細野哲弘社長が表彰し、その栄誉を称える。

今回表彰される233名のうち、優秀保守技術者25グループ225名については、各グループ代表の25名が表彰式に出席する。この行事が始まってから、昨年度までに受賞した優秀保守技術者は、累計で7,446名。今回の225名が加わると、7,671名になる。

JECCでは、多くの優れた保守技術者を表彰することにより、技術者の日頃の努力を称え、さらに保守技術・保守サービスの向上が図られることを期待している。

優秀保守技術者の審査は、コンピュータ・メーカー6社及び6社から委託を受けた保守担当会社並びに保守担当先のお客様から推薦書が提出された者を対象に、保守会社及びJECCで構成する「保守サービス責任者会議」におい

て、次の選考基準に基づいて行われた。

- ①担当するお客様における保守状況が良好で、システムの故障時間が極めて少なく、システムの円滑な運用に顕著な功績があったと認められる者。
- ②保守技術者の活動を支援し、保守サービスの向上に特に功績があったと認められる者。
- ③保守技術の改善に特に功績があったと認められる者。

また、JECCが保守関係者を対象に募集した「保守サービス向上月間標語」は、ハードウェア、ソフトウェア保守サービスの重要性や、保守技術者としての心構えを短い言葉で的確に表現した内容で、特に最優秀作品については、その年の保守サービス向上月間のポスター等に掲載される。

今年度の応募数は1万9,104編となり、「保守サービス責任者会議」で審査した結果、最優秀作品1編と、優秀作品3編を決定した。

感想文は、保守サービス全般に関するものをテーマに、保守技術者を対象に募集しており、今年度は434編の作品が寄せられた。いずれも、保守技術者の日頃の努力や貴重な体験がにじみ出ており、仕事に対する熱意にあふれた素晴らしい内容である。

「保守サービス責任者会議」の審査により、最優秀賞作品1編、優秀賞作品3編が選出された。さらにJECCは、受賞作品とともに、感想文の選考過程で選ばれた他の優秀作品43編を収録した「保守サービス向上月間感想文集」を発刊して、全国の保守拠点など関係者に配布する。

第46回優秀保守技術者表彰式典は、10月10日に、東京・大手町の経団連会館カンファレンスで、経済産業省、一般社団法人電子情報技術産業協会より来賓を迎えて催される。

また、式典では、東京大学薬学部教授池谷裕二氏が、「脳を知って脳を生かす」のテーマで記念講演を行う。